

第1回 紫波町総合計画審議会

日時 令和5年11月1日(水) 午後6時30分～8時
場所 紫波町役場 3階 会議室 301～303

次 第

◎ 委嘱状交付

1 開 会

2 町長あいさつ

3 委員紹介

4 会長及び副会長の選出

5 会長あいさつ

(会議成立報告)

6 議 事

(1) 第三次紫波町総合計画 後期基本計画の策定について

(2) 第三次紫波町総合計画 前期基本計画の評価について

(3) 第三次紫波町総合計画 後期基本計画の体系(案)について

7 その他

6 閉 会

第1回 紫波町総合計画審議会 出席者名簿

令和5年11月1日(水) 午後6時30分～8時

紫波町役場 3階 会議室301～303

【委員】

(五十音順)

氏名	所属等	備考
浅沼 清一	岩手中央農業協同組合 代表理事組合長	
阿部 敏博	紫波町行政区長協議会 会長	
阿部 久克	紫波町消防団 団長	
阿部 萬太郎	農業	
阿部 礼子	特定非営利活動法人紫波みらい研究所 理事長	
太田 幸市	紫波町交通指導隊 副隊長	
小川 哲男	一般財団法人紫波町体育協会 会長	
小澤 由香里	紫波町食生活改善推進員協議会 会長	
加藤 博巳	一般社団法人紫波郡医師会 副会長	
菊地 圭二	特定非営利活動法人紫波ing 理事	
木戸 章子	宿はこや 責任者	
近藤 英一	社会福祉法人紫波町社会福祉協議会 会長	代理：細川恵子 副会長
佐々木 勉	紫波町PTA連合会 会長	
佐藤 謙司	紫波町校長会 会長(西の杜小学校 校長)	
菅原 和博	紫波町農林公社 森林循環アドバイザー	
高橋 栄悦	一般社団法人紫波町観光交流協会 会長	
高橋 哲也	南日詰大神楽保存会 事務局	
高橋 吉見	紫波町防犯隊 隊長	
橘 富雄	紫波町商工会 会長	
戸塚 美奈子	虹の保育園 園長	
富岡 敦子	紫波町連合婦人会 会長	
七木田 吉明	紫波電設有限会社 専務	欠席
檜山 雄介	しわりり 副代表	
松田 竜也	岩手農蚕株式会社 取締役部長	
役重 眞喜子	岩手県立大学総合政策学部 准教授	

【紫波町】

町長	熊谷 泉
副町長	藤原 博 視
生活部長	中田 秀 男
産業部長	長谷川 崇
建設部長	谷地 和 也
教育部長	阿部 薫 之

事務局

企画総務部長	鎌田 千 市
企画課長	小川 篤
企画課副課長	森川 高 博

第1回紫波町総合計画審議会 会議録

- 1 開催日時・場所： 令和5年11月1日（水）午後6時30分～8時45分 紫波町役場3階 会議室 301～303
- 2 出席者： 別紙出席者名簿のとおり
- 3 会長及び副会長の選出： 会長に阿部萬太郎氏、副会長に菊地圭二氏を選出
- 4 議事： （1）第三次紫波町総合計画 後期基本計画の策定について
 （2）第三次紫波町総合計画 前期基本計画の評価について
 （3）第三次紫波町総合計画 後期基本計画の体系（案）について
- 5 議事における委員からのご意見等（概要）

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● （前期取組評価の資料で）「保護者の養育能力の低下」、「精神疾患が考えられる保護者の増加」、また、「発達特性が考えられる児童の増加」とあるが、本当にこの4年間の社会や地域の変化で増えているのかというところが疑問に思う。 また、「配慮が必要な児童とその保護者について、同意を得て個々に応じた適切な支援につながった割合」が70%から96.5%に増えているので、これの関連性を見ると、安易に問題のある保護者や児童が増えているというよりは、適切に対応した結果、このような親や子が見つけられているという、プラスの材料になるのではないかと思うので、記載の仕方とともに考えたほうが良いと思う。 	<p>【こども課】 現状の捉え方や表現について、ご意見を参考に修正いたしました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 岩手県民は県民性もあって、新型コロナウイルス感染症にはまだまだ慎重になっているようだ。未だに恐怖心というのがこの地域には強いと感じている。 	<p>【事務局（企画課）】 計画策定での視点として参考にいたします。</p>

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 私たちは 30 年前に山屋地区に移住してきた。典型的な里山、果樹地帯、林業を生業とする人たち、お米を作っている人たちが協働の精神を持ちながら自然と共に暮らしている地域が素晴らしくて、学ばせてもらうことばかりである。 ● 自宅隣の空き家を購入し、2017 年秋には町が開催したリノベーション事業化講座を受講した。その講座では、どんな目的をもって、どんなお客様をターゲットにして宿を作り上げていくかという考え方を学んだ。その中で改めて「自分たちが山屋に暮らしてきて学んだことや地域のすばらしさを、宿に来てくれたお客様に伝えるような場所にできたらよい」という考えが定まった。 ● コロナ禍にもかかわらず昨年（R4）は 500 人を超えるお客様に止まっていた。 	<p>【事務局（企画課）】 ご紹介いただいた事例なども参考にしながら、計画や取組を検討してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● どの審議会でも今日のようにエクセルの表が出てきて、指標の説明などが続いて、あとはいくつか感想が述べられて終わるというのが多くて、すぐもったいないと思っている。分野横断でやっていくと書いてあるのに全然横断していないやり方になっている。先ほどの委員から出たようなお話をみんなで共有しながら、次の 4 年はこうあったらいいよねということ話し合えるような場にしてほしい。 	<p>【事務局（企画課）】 計画策定での視点として参考にいたします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 「保育の質向上の必要性は十分認識されていても、保育業務の多忙さもあり、研修の取組に消極的…」とあるが、研修に行きたくても行けないというのが現実である。というのも、保育士のなり手がいない。実際に、今年度も 4 名の実習生を受け入れたが、その中には保育士になることに戸惑いを持っている生徒もいるようだ。保育現場の日々の厳しさや大変さを役場の方も汲み取っていただきたい。待機児童も受け入れたいところだが、実情、受け入れられていないところもある。 ● 「幼保小間での取組をスムーズに進めるにあたり、窓口が決まっていないことでやり取りのしにくさがある」というところだが、連続性がないのが現状である。子育てのところで連続性がないと、学校に行ったときにつまずいてしまうので、幼少期も大事だが、引き続き小学校に上がることを大事にしていかなければならない。私たち保育士だけでは微力なので、教育委員会やこども課の方たちの協力を得て、紫波町は子育てしやすい、住んでよかった、そうした声が広がって人口が増えた、となればよい。 ● 紫波町が少しでも潤うようにするには、やはり、子育てしやすい町づくりをしていくことが一番だと思っている。そのためにも保育士の確保について、町の保育施設が連携し、行政を巻き込みながら保育施設が（主体的に）動いていく感じも作っていかれたらよいと思っているので、皆さんの力を借りながらみんなでまちづくりを進めていければと思う。 	<p>【こども課】 ご意見を参考に素案で修正いたしました。</p>

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● インターネットやSNSを通して新しいコミュニティがたくさんできているのに対して、町がサポートしている部分がごく少ないと感じる。新しい活動を始めた方の情報を町から紹介できるような体制などがあっても良いのではないかと。情報の拡散力などのノウハウを団体間で共有できるようなシステムを作ってほしい。私たち（のような情報発信団体）も活用していただいて、コミュニティづくりに生かしていただければと思う。 	<p>【事務局（企画課）】 計画策定での視点として参考にいたします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 紫波新聞では株式会社からNPOに変えたのだが、新聞で何を取り上げるかとなったときには、「紫波の人を光らせよう」ということをメインでやることとした。総合計画でも対象は人（町民）だと思う。計画を考えるうえで、「妊婦さんがいて、その人が子供を産んで、子育てが始まって、子どもが幼稚園、小学校、中学校に行つて。お父さんお母さんは仕事しなければならない、子どもが就職時期には地元ではどうか、農業ではどうか・・・」など、「人」というものをあてはめながら検討してもらえるとよい。 	<p>【事務局（企画課）】 計画策定での視点として参考にいたします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的にもそうだが、消防団員が減っているの、地域の防災守れるのかなという感じになってきている。町でも中央部は団員がいるが、東西部では団員が高齢化し、若い人たちもその地域にはいないということで、そのあたりをどうするか考えなければならないと思っている。消防団も新型コロナの影響でいろいろな行事が減った。今まで無駄ではなかったが、行事が減っても大丈夫のようだ。 訓練なども減らしながら、少しでも団員の皆さんに負担のかからないような消防団を目指していきたい。「魅力ある消防団に入りたい」と言ってもらえるような紫波町消防団にしたい。 	<p>【事務局（企画課）】 計画策定での視点として参考にいたします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 各分野で重点項目を決めて出してもらえると、私たちも「どういうことを提言していこうかな」となる。（資料が）漠然としていると何を話してよいかわからないので、資料作成を工夫してほしい。 	<p>【事務局（企画課）】 計画策定での視点として参考にいたします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● （本日の資料だけでは）観光の話とかが全然分からない。後期計画に入るか入らないかもわからないので、もう少し下の（具体的な）部分から協議したほうが良いと思う。 ● 肥料とか農薬が高騰してくると農業ができない。これの原因は、もう小さな問題ではなく、国際的な問題である。コロナのように、将来何が起きるかわからない。ウクライナのように戦闘状態にある世界がある中で、どのように紫波町の独自性を目指して、それをこの計画の中に入れるかどうかというのが非常に大きな問題になるということに気になっている。 	<p>【事務局（企画課）】 計画策定での視点として参考にいたします。</p>

ご意見等（概要）	町の対応・回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 協働のまちづくりを進めている紫波町においても、行政だけでなく、町民の皆さんやいろいろな団体と目指すべき姿を持っていこうという、今回の体系は良いと思う。 ● 農業もそうだが郷土芸能でも担い手が減っている。消防団もなり手がいない。実は、地域の中の課題は共通している部分がかかり多い。兼業農家がもう少し増えれば、地域のことを役割として担っていく人も増えるのではないかと感じることもある。定型的に考えたときに、どうしても縦割りになってしまうことはあるかもしれないが、横串を通すような形で課題に向き合って複数の課題を計決するようなことも盛り込めれば、新しい視点になるのではないかと感じた。 	<p>【事務局（企画課）】 計画策定での視点として参考にいたします。</p>